

公益社団法人 日本義肢装具士協会

令和 2 年度 定時社員総会

令和元年度 事業報告

自 令和元年 5月 1日

至 令和 2年 4月 30日



令和 2 (2020) 年 7 月 4 日 (義肢会館)

I. 公益目的事業

1 義肢装具をはじめとした福祉用具を必要とする者の生活の質の向上に資する事業

1-1 講座事業

本事業では、国民に対し、義肢装具等の福祉用具を必要とすることが非日常ではないことや、義肢装具等の福祉用具を使用しながら良質な日常生活を送ることに対する理解を深め、対象者の日常生活の質の向上を目的として実施した。

1) 障害者、義肢装具士の啓もうに関する事業

小学生や中学生など一般者を対象に、障害の理解、パラアスリートとこれを支援する義肢装具士に関する理解を目的に交流イベントを開催した。

<企業内研修>

日程：2019年5月17日（金）

場所：株式会社 テルモ（東京オペラシティ 49階）

時間：15時～16時30分 ※JAP0担当は45分間

対象：テルモ社員 30名～40名

内容：立位テニス選手の講演（テルモ社員）

JAP0 「障がいのある方々と、義肢装具士の関わり」講演

義肢装具展示と質疑応答

<義肢装具体験イベント>

日程：2019年6月15日（土）

場所：西東京市立 保谷中学校

時間：1時間目～3時間目（1コマ：50分）

対象：1年生・のびる組（158名+20名：178名）・保護者・教職員

内容： 講義「障がいのある方々と、義肢装具士の関わり」

義足ユーザー交流（大腿義足ユーザー・下腿義足ユーザー）

装着体験：筋電義手体験・装具装着体験・高齢者疑似体験・骨格義足組立体験

<オリ・パラ教育推進支援プログラム（その1）>

日程：2019年10月3日（木）

場所：八王子市立 第五中学校

時間：13時00分～14時10分

対象：1年生～3年生（475名）・教職員

内容：講義：沖野氏

義足ユーザー交流（下腿義足：パラリンピック陸上競技者/走幅跳日本記録保持者）

<オリ・パラ教育推進支援プログラム（その2）>

日程：2019年12月12日（木）

場所：品川区立 豊葉の杜学園

時間：10時50分～12時40分（1コマ50分で、同内容を2コマ）

対象：中学校1年生（125名）・教職員

内容：講義「障害を抱えた人々を支える義肢装具 パラリンピックと義肢装具士」
義足ユーザー交流

1-2 災害時支援事業

本事業では、国内外の自然災害等の被災地域において被災生活を送る者への生活支援及び義肢装具等の福祉用具の供給に関する支援を各行政機関や関連団体と連携して実施した。

1) JRATの構成団体としての取り組み（大規模災害被災者支援に関する事業）

常任理事会

- ・JRAT戦略会議、および被災地への福祉用具支援に関する検討会への出席（令和元年11月14日、令和2年3月27日）

北海道支部

- ・北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）においての活動を行った。
- ・2か月ごとに開催される会議への参加
- ・1/25（土）～26（日）災害リハコーディネーター研修会の企画・運営
- ・平成30年北海道胆振東部地震の活動報告書の編集作業

2 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する学術・技術の向上、研究開発及びその成果の普及・振興に資する事業

2-1 学術大会に関する事業

本事業では、義肢装具等福祉用具に関する学術を普及・発展させ、臨床に役立つ知識と技術を向上させる目的で、教育講演並びに対象者に関する医療、リハビリテーション及び日常生活面での援について臨床経験又は学術経験を有する者の研究成果発表、及び最新機器等の情報提供を行う。

1) 2019年度 日本義肢装具士協会学術大会

ISP02019世界大会への参画および協力のため、2019年度は学術大会を開催しなかった。

2-2 研修セミナーに関する事業

本事業は、義肢装具士が義肢装具等の福祉用具に関する最新技術又は知識を学び、臨床において従来から実施している医療技術を応用発展することで、対象者へより良質な医療技術の提供を実現することを目的とする。

1) 研修セミナーの開催

セミナー数：5回

参加者総数：261名

①『ユーザーに好まれるための義肢装具の設計・改良方法 ～ユーザーニーズをつかむ感性工学～』

期 日：令和元年8月25日

会 場：サテライトキャンパスひろしま

参加者：43名

②『生活を支える義肢装具・今後の義肢装具士の役割と課題 第2弾 -東北6県による義肢装具士の地域での役割・活動について-』

期 日：令和元年9月7日

会 場：仙台医健専門学校 第二校舎

参加者：51名

③『坐骨収納型ソケット実技セミナー 正確な知識と技術を習得するために』

期 日：令和元年9月21～23日

会 場：熊本総合医療リハビリテーション学院

参加者：6名

④『多職種を理解する 第6弾 様々な視点から診る足病変アプローチ』

期 日：令和元年10月26日

会 場：北海道科学大学 C301 教室

参加者：40名

⑤『脳性麻痺と下肢装具療法セミナー』

期 日：令和元年12月1日

会 場：名古屋市中小企業振興開会（吹上ホール） 第7会議室

参加者：121名

⑥『先天性四肢形成不全児及び小児切断に対する義』

期 日：令和2年2月23日

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

※新型コロナウイルス感染症のため開催中止

⑦『義肢装具適合に必要な評価学 第5弾 ～低活動下肢切断者へのアプローチ～』

期 日：令和2年3月8日

会 場：武蔵野大学 有明キャンパス

※新型コロナウイルス感染症のため開催順延

2-3 新たに資格を取得した者に対する教育セミナー（生涯学習に関する事業）

本事業は、新たに義肢装具士の資格を取得した者に対し、義肢装具士の業務について理解を深め、義肢装具士が対象者にとって医療技術を習得した専門家としての支援者になるための育成カリキュラムを提供する。

1) 生涯学習システム基礎プログラムの実施

セミナー数： 6回
参加者総数： 44名

①北海道支部

期 日：令和元年6月1日
会 場：札幌市環境プラザ 環境研修室
参加者：3名

②南日本支部

期 日：令和元年6月15日
会 場：熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科教室
参加者：4名

③西日本支部

期 日：令和元年6月16日
会 場：神戸医療福祉専門学校三田校
参加者：5名

④東日本支部

期 日：令和元年6月29日
会 場：国立障害者リハビリテーションセンター 本館4F大会議室
参加者：9名

⑤中部日本支部

期 日：令和元年7月6日
会 場：専門学校日本聴能言語福祉学院
参加者：15名

⑥東北支部

期 日：令和元年7月21日
会 場：TKP 仙台西口ビジネスセンター
参加者：8名

3 国際協力及び貢献に資する事業

3-1 国際支援活動事業

本事業は、福祉用具に関する技術及び使用に関して発展・開発途上にある国又は地域の人々に対する支援として、海外在住の対象者(国籍問わず)に対し、日本の福祉用具に関する最新医療技術を提供する義肢装具士の活動に対して助成するもので、義肢装具士の技術及び臨床経験を活かして、海外の対象者の日常生活の質の向上及び福祉用具の普及・発展を図るための、国際協力・国際貢献事業である。

1) 国際支援活動助成事業

令和元年度 国際支援活動助成申請『トーゴ人切断者のスポーツ義足及びランニング技術支援』の

審査

3-2 関連団体との連携・支援事業

本事業では、医療技術関連団体と連携協力し、国内外の福祉用具に関する医療技術の普及・発展に貢献できるよう活動を行う。公益法人及び公益性のある団体が実施する学術、教育、講演、国際支援などの活動に対し、学術・技能向上のための提携交流、支援活動、助成等を行うことがある。

1) ISPO 世界大会 2019 への支援(国際交流及び国際支援に関する事業)

日本組織委員会への参画と委員の派遣（会長、事務局長、顧問）
世界大会への賛助団体としての参画

2) 義肢装具関連団体との協力・協働事業の実施

義肢装具関連 3 団体協議会への参画
日本義肢協会各支部との連携、合同セミナーの実施
香港義肢矯形師學會との学術交流、双方の学術大会への人的派遣

4 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する刊行物の発行及び調査研究事業

4-1 学術誌の発行

福祉用具に関する学術論文集として、学術大会等で発表され、その研究成果について討議された義肢装具士の優れた研究論文及び義肢装具士の職域に関連する学術情報を特集記事として提供する学術誌を発行する。

1) PO アカデミージャーナルの発行

- ・ 27 巻 1 号 令和元年 6 月 「上肢装具の製作に対する理論・スプリントと上肢装具の有効性」
- ・ 27 巻 2 号 令和元年 9 月 「地域脳卒中リハビリテーション」
- ・ 27 巻 3 号 令和元年 12 月 「パラスポーツの技術支援」
- ・ 27 巻 4 号 令和 2 年 3 月 「筋電義手」

4-2 白書の発行

『義肢装具士白書 2019』実態調査およびアンケート集計

II. その他の事業（相互扶助等事業）

1. WEB サイトでの会員限定の情報提供

義肢装具士求人情報の掲載
理事会・委員会等の議事録の掲載

2. 各支部(地域)での会員管理や運営方法についての会議

北海道支部 令和元年9月23日
東北支部 令和2年2月22日
東日本支部 令和元年11月4日
中部日本支部 新型コロナウイルスのため開催せず
西日本支部 令和元年12月1日
南日本支部 令和元年11月30日

3. 会員表彰

1) 第5期最多単位取得者表彰

第5期最多単位取得者の表彰に向けた単位集計

Ⅲ. 理事会、総会等の開催

1. 理事会の開催

令和元年6月22日 令和元年度 第1回理事会 (テレビ会議)
令和元年7月14日 令和元年度 第2回理事会 (仙台・仙台国際センター)
令和元年8月17日 令和元年度 第3回理事会 (テレビ会議)
令和元年10月27日 令和元年度 第4回理事会 (本郷・義肢会館)
令和2年3月14日 令和元年度 第5回理事会 (テレビ会議)
令和2年4月18日 令和元年度 第6回理事会 (テレビ会議)

2. 常任理事会の開催

令和元年5月19日 (テレビ会議)
令和元年6月8日 (本郷・義肢会館)
令和元年6月13日 (テレビ会議)
令和元年8月17日 (本郷・義肢会館)
令和元年9月7日 (テレビ会議)
令和元年10月2日 (テレビ会議)
令和元年10月9日 (テレビ会議)
令和元年10月12日 (テレビ会議)
令和元年11月9日 (テレビ会議)
令和元年12月14日 (テレビ会議)
令和2年1月19日 (本郷・義肢会館)

令和2年2月8日 (テレビ会議)

令和2年3月7日 (テレビ会議)

令和2年4月11日 (テレビ会議)

3. 社員総会の開催

3-1 定時社員総会

令和元年7月14日 令和元年度計算書類承認の件等

Ⅲ. 常任理事会、各種委員会・WG 報告

1. 義肢装具士の資質向上

1) 義肢装具士養成教育 WG 野坂利也

具体的な作業の進捗はゼロであるが、日本義肢装具学会の芳賀会長に養成教育 WG への参加の打診をした際にまずは当協会でガイドライン等を作成後に参加する方向で進めてほしいとのお話を頂いた。
＜具体目標に対する達成度＞

昨年度 WG の開催がなかったため達成されたものは特になし。

「義肢装具士業務指針」改訂に係る作業が最終段階となっているので、それを基に養成教育 WG を再開し、ギプス採型だけが採型業務ではなく、トリシャム・3D スキャナー等で入手したモデル情報を修正作業するために知識と技術の教育、義肢装具士としての必要な評価ができる人材養成の教育を保證できる教育内容への見直し等を進めていく予定である。

2) 継続教育部 坂井一浩、昆恵介

令和元年 9 月 16 日、継続教育部会議を開催し、認定制度の方向性についてコンセンサスを獲得した。

令和 2 年 3 月 15 日に認定制度合同委員会を開催し、認定制度構築の進め方について協議した。なお、本会議において、継続教育部の具体目標である“生涯学習制度構築”の一部として「認定制度構築」に焦点化し、これに特化して作業を進める「認定制度 WG」を設置することとなった。

同年 4 月 12 日、継続教育部は認定制度 WG を開催し同制度の骨子について協議すると共に、規程・規則案、予算案等の作成を行った。

＜具体目標に対する達成度＞

「会員の義肢装具士としての研鑽を支援する 3 委員会（研修、編集、生涯学習）の連携構築」および「認定制度を見据えた生涯学習制度の構築」を目標とした。このうち特に後者については、枠組みを「認定制度 WG」に変更し、2021 年度開始を目標とした『認定義肢装具士制度』の素案（作業項目の設定、予算の試算、規程・規則案の作成）を検討し、認定制度委員会へ提出した。

① 研修委員会 昆恵介、石原栄治

全国セミナーの企画運営（以下）、研修委員会支部セミナーの企画運営（以下）、研修委員会支部セミナー事業報告書・会計報告書の審議、研修委員会支部セミナー企画協議と事業計画案審議、研修セミナー活動に関わるガイドラインと各種フォーム・規定の整備、セミナーアンケート結果の分析

A : 2019 年度実施済みの研修セミナー

全国セミナーおよび東日本支部セミナーは新型コロナウイルスの影響を受けて、開催順延または中止となった。そのため開催中止に伴って参加者に旅費交通費等を含めた返金が行われ、およそ 83 万円の支出を余儀なくされた。その他の開催されたセミナーは事業計画通りに開催を終了した。

全国セミナー(開催順延)：義肢装具適合に必要な評価学 第 5 弾～低活動下肢切断者へのアプローチ～

北海道支部(開催済み)：多職種を理解する 第 6 弾 様々な視点から診る足病変アプローチ

東北支部(開催済み)：生活を支える義肢装具・今後の義肢装具士の役割と課題 第 2 弾-東北 6 県による義肢装具士の地域での役割・活動について-

東日本支部(開催中止)：先天性四肢形成不全児及び小児切断に対する義肢

中部日本支部(開催済み)：脳性麻痺と下肢装具療法セミナー

西日本支部(開催済み)：ユーザーに好まれるための義肢装具の設計・改良方法 ～ユーザーニーズをつかむ感性工学]

南日本支部(開催済み)：「坐骨収納型ソケット実技セミナー」-正確な知識と技術を習得するために-

B：2020 年度実施予定の研修セミナー計画

開催支部：全国セミナー

開催日時：2021 年 3 月 7 日(日) 10：00～16：00

テーマ：義肢装具士に必要な評価学 第 6 弾 脳卒中下肢装具各論偏
～脳卒中片麻痺者に対する装具介入のためのクリニカルリーズニング～

場所：三宮研修センター

開催支部：北海道支部

開催日時：2020 年 11 月 28 日(土) 13 時～17 時

テーマ：変形性膝関節症の評価と装具によるアプローチ

場所：北海道科学大学 C 棟

開催支部：東北支部

開催日時：開催中止

テーマ：生活を支える義肢装具・今後の義肢装具士の役割と課題
第 3 弾～在宅義足ユーザー支援の見直し～

場所：仙台医健専門学校 第二校舎

開催支部：東日本支部

開催日時：2020 年 12 月 5 日～6 日

テーマ：「ダイレクト適合からの展開」 Manual compression 採型を用いた下腿義足

場所：人間総合科学大学

開催支部：中部日本支部

開催日時：2020 年 11 月 28 日

テーマ：車椅子の基本と姿勢保

場所：日本聴能言語福祉学院

開催支部：西日本支部

開催日時：開催順延

テーマ：実技講習！ プリプレグカーボン装具製作法

—プロから学ぶ材料選定から積層・硬化まで—

場所：サテライトキャンパスひろしま

開催支部：南日本支部

開催日時：開催順延（開催未定）

テーマ：「坐骨収納型ソケット実技セミナーライナー編

—正確な知識と技術を習得するために—

場所：熊本総合医療リハビリテーション学院

② 編集委員会 後藤 直生、石原栄治

編集委員会は、年4回のP0アカデミージャーナル誌の発刊、および義肢装具エビデンス構築のため投稿論文の掲載を目的としている。

→全国編集委員会は基本的にジャーナル誌発刊後に合わせて年4回の会議を行い（1回Web会議含む）、各支部の進捗状況を確認している。各支部委員会は年3回の会議を行っているが、可能な限りWeb会議で対応している。各支部の輪番制である「特集企画」は、スケジュール管理が特に重要であり、定期発刊に直結してくるので状況把握は必須である。

→投稿論文に関しては、投稿を各所にて呼びかけている。また、査読作業は査読者へ依頼時に締め切りの徹底をお願いする。速やかな回答を促すことで、投稿から掲載までの時間短縮を目指す。

<具体目標に対する達成度>

- ・全国編集委員会（年4回）にてジャーナル誌の特集・連載等の学術誌としての内容確認、スケジュール管理を徹底すること。

→計画通り、第1回7月（仙台）、第2回9月（東京）、第3回12月（東京）、第4回4月（Web会議）に委員会を開催した。各支部の進捗状況を把握し、調整を行うことでジャーナル誌の発刊遅延の縮小につなげることができた。

- ・投稿論文数の増加に関して。

→今年度の学術大会が延期のため、発表者に投稿を呼びかける機会がなくなった。そこで、ジャーナル誌28巻1号（6月発刊予定）のお知らせ頁に「投稿論文のおすすめ」を掲載することとした。※2019年度掲載論文数4本

③ 生涯学習委員会 笹川友彦、中村隆

- ・委員会を開催した。

①2019/9/8 ②2019/12/8 ③2020/2/24

- ・生涯学習システム基礎プログラムを開催した。

北海道6/1(土) 東北7/21(日) 東6/29(土) 中部7/6(土) 西6/16(日) 南6/15(土)

- ・生涯学習システム基礎プログラムのコンテンツ作成を進行している。

P T協会のシステムを参考に、大分類・小分類を行い、カリキュラムを確定。

カリキュラムに応じたスライドおよびコメントの作成を担当者により作業中。

コンテンツ制作に伴う報酬規程について協議中。

＜具体目標に対する達成度＞

- ・各支部において生涯学習システム基礎プログラムを開催する。
計画通り、全支部において開催を行った。
- ・学術大会開催がないため、生涯学習セミナーの開催予定はなし。
次年度以降の学術大会での開催を検討していく。
- ・生涯学習基礎プログラムの項目の精査、運用できるコンテンツの作成に着手
現状での全コンテンツの概要は完成。
今後は継続教育部会WGの内容確認・修正を反映させ、次年度よりの運営を目指す。

3) 認定制度関連

① 認定制度委員会 野坂利也

今までWGを4回、委員会を1回開催し、目的、用語、スケジュール、e-learningシステム、講義内容、予算について検討をしてきた。

目的、用語については、下記のごとく決まり、運用システムの試行を行い、年度ごとの予算について検討している。

日本義肢装具士協会認定制度

日本義肢装具士協会認定制度（以下、認定制度）は、公益社団法人日本義肢装具士協会が他の関連学会と、あるいは単独で、特定のレベルにある義肢装具士を認定するための制度をいう。

認定制度を司る委員会として「義肢装具士認定制度委員会」を置き、制度の規程等として以下の基本事項を定める。

認定制度は「認定義肢装具士制度」と「専門義肢装具士制度」からなる。

義肢装具士認定制度の背景

我が国における義肢装具士養成教育では、基礎科目、専門基礎科目、専門科目等の有機的な統合により、義肢装具士としての専門能力と専攻分野を通じて幅広い基礎力を培うことを目指して教育を行っている。しかし臨床を主とする義肢装具士は、養成教育で学ぶこと以外の様々なスキルが必要とされている。そこで本協会は、卒業後一定の期間臨床を積んだ義肢装具士を対象に、本協会が設定したカリキュラムを受講してもらうことにより、臨床能力が一定水準以上にあることを保証する証として「認定義肢装具士」の称号を付与・認定する。

認定義肢装具士制度の目的

義肢装具士として必要な、人間力、コミュニケーションスキル、評価法、臨床実習指導力を養い、臨床経験後の「標準的な」義肢装具士として本協会が保証するものであり、義肢装具士の実践力及び臨床実習教育の充実、研究活動の支援などを図り、継続的な義肢装具士の資質の向上を目的としている。

認定義肢装具士制度

認定義肢装具士制度とは、公益社団法人日本義肢装具士協会が定めた水準にある義肢装具士を認定するための制度をいう。

本制度のもとに認定義肢装具士制度委員会および認定義肢装具士認定委員会を置く。

認定義肢装具士制度委員会は細則を検討し運営を担う。

認定義肢装具士認定委員会は認定審査結果に基づき、認定義肢装具士の認定を行う。

認定義肢装具士カリキュラム

認定義肢装具士認定審査申請の要件の一つとして履修すべきカリキュラム（科目体系）をいう。

「認定義肢装具士」制度委員会によって検討され、生涯学習委員会によって作成、提供される。

<補足説明>

認定義肢装具士は、卒後1～2年の間に基礎プログラムを履修し、一定の臨床経験を積んだ後、卒後3年程度の義肢装具士を対象にe-learning及び対面式の認定義肢装具士カリキュラムを受講した後、試験の合格者に認定義肢装具士の称号を付与・認定する。

専門義肢装具士制度の背景

さまざまな医療関係職種において、高度化する専門領域に特化した高度な知識・技術を有する専門職種の養成が求められている。本協会においては、厳しい受講要件、受講後の試験制度、一定期間ごとの更新性により専門義肢装具士の資質を保証する。専門分野における全国学会・講習会での講師、専門分野におけるさまざまな義肢装具の相談、製作依頼に対応できる人材を認定する。

専門義肢装具士制度の目的

高度化し専門分化が進んでいる医療の現場において、義肢装具の専門領域に関する高度な知識・技術を用い、より細分化した特定の分野における臨床活動の実践及び講義・実技講習等が行える分野別の専門義肢装具士を認定することにより、義肢装具の広がりや質の向上を目的としている。

専門義肢装具士制度

専門義肢装具士制度とは、公益社団法人日本義肢装具士協会が特定の分野で高い水準にある義肢装具士を認定するための制度をいう。本制度のもとに以下2つの委員会を置き、更に分野ごとに小委員会を置く。

① 専門義肢装具士制度委員会 細則の策定、および見直しを行う

○○分野専門義肢装具士制度小委員会

② 専門義肢装具士認定委員会 認定審査結果に基づき、認定義肢装具士の認定を行う

○○分野専門義肢装具士認定小委員会

専門義肢装具士カリキュラム

特定分野の専門義肢装具士認定制度認定審査申請の要件の一つとして履修すべきカリキュラム（科目体系）をいう。当該分野の「専門義肢装具士」制度小委員会によって検討され、生涯学習委員会によって作成、提供される。

<補足説明>

専門義肢装具士は、5年程度ごとの更新（検討中）を必要とし、認定期間中は〇〇分野専門義肢装具士として名乗ることが認められ、日本義肢装具士協会から特定の会員証が交付される。現在進められている専門分野（各認定分野におけるカリキュラムおよび時間等は今後検討）は以下の4分野を検討中である。

- ・大腿義足分野
- ・脳卒中罹患者の下肢装具分野
- ・下肢温存分野（下肢救済分野）
- ・車椅子・シーティング^g分野

昨年度に認定制度WGが4回開催され、認定制度委員会が1回開催された。来年学術大会をめぐり認定義肢装具士制度が始まる予定となっている。次に理事会には予算案を提出し、承認いただく予定となっている。

② 専門義肢装具士認定制度

a. 下肢救済足病分野WG 安田義幸、野坂利也

これまでの下肢救済分野における主な学会は、日本フットケア学会ならびに日本下肢救済足病学会であった。2019年にこの両学会が統合し、日本下肢救済足病医学会として発足した。これまでの認定制度に関する助言等は、下肢救済足病学会と協力していた。したがって力を借りることとなる学会の組織変更による調整が必要と考えている。

<今後の見通し>

下肢救済足病医学会では、我々の職種を必要と認識している。また、義肢装具士の職域と質の向上の為に下肢救済分野の主な学会が統合したことの認識も必要と考えている。現在のところ下肢救済足病医学会の義肢装具部会と連携も取れている。このことを踏まえ2020年の本協会学術会議に足病医学会の後援をいただき、環境の変化や分野の必要性やの啓蒙を目的として講演を組みたいと考えている。今のところ上層の判断待ちの状況にある。

b. 車椅子シーティング分野WG 北川新二、野坂利也

テクノエイド協会より発刊予定の小冊子『車椅子を知るためのシーティング入門～小児から高齢者まで使える～』の作成に協力する（この小冊子はJAPOをはじめとする車椅子・姿勢保持に係る12団体が参加している「車椅子姿勢保持適合技術連絡会」で作成）。

車椅子・シーティング分野の認定制度の確立のためにカリキュラムの構築を車椅子・シーティングにかかわる他団体との協力体制を含め進めていく。また、その中からカウンターパートになる団体を探していく。

<これまでの活動と成果>

テクノエイド協会より小冊子『車椅子を知るためのシーティング入門～小児から高齢者まで使える～』が12月に発刊された。テキスト委員として参加し、発刊に協力することができた。また、これをテキストとして行う講習会（テクノエイド協会主催、関連団体が運営を行うものになる）のカリキュラム作成のための車椅子姿勢保持適合技術連絡会に参加。今年度中には講習会の実施要項が確定する見込である。

<今後の見通し>

昨年度まで開催されていた JAWS・義肢協会・車いす SIG 主催の「車椅子フィッティング基礎講習（障害分野）」が来年度から JAWS・義肢協会・日本義肢装具士協会主催「車椅子姿勢保持基礎講習（高齢分野・障害分野）」に移行する。この講習会の実行委員会に参画しているので、今後も進めていく。

この講習会を含め、関連団体で開催されている講習会のカリキュラムの内容を参考に社会的にも対外的にも認知される認定制度のカリキュラムの構築、さらにスキルアップのための専門制度まで含めたカリキュラムの確立をめざし社会状況を踏まえながら進めていく。

シーティング・コンサルタント協会より、2020年から『シーティング・コンサルタント義肢装具士』という認定制度ができる（拡大）との連絡がはいつているので、養成研修等の情報を収集する。

c. 脳卒中分野 WG 昆恵介、野坂利也

■進捗状況

2019年度にWGが発足してから、非公式に協議を2回ほど重ねてきたことが、協力していただいた委員（久米委員、村山委員）には、無報酬でおこなったこともあり、次年度は予算計上を行い、公益事業の1つとして専門義肢装具士制度確立のための準備レベルを他団体と協議できるだけのコンテンツ、根拠資料、などの準備を行うことを目標と予算計上を行った。

■2020年度実施計画

専門義肢装具士（脳卒中分野）WGの主な活動目的および方針は、以下の通りとする。

- ・教育継続部（研修委員会、編集委員会、生涯学習委員会、下肢救済）と連携し、協会全体の方向性を見定め、専門義肢装具士制度確立のための準備を行い、認定制度委員会および理事会に意見を答申していく。
- ・専門義肢装具士（脳卒中分野）に必要なコンテンツおよびシラバスを作成する。
（シラバス作成は現在進行中で協議中である）
 - 1) 脳卒中分野の専門士に必要な到達目標を設定する（シラバス作成）
 - 2) シラバスの到達目標に即した評価方法を設定する。
 - 3) 専門士のお墨付きを協会が付与するための条件を設定する（シラバス作成）
- ・関連団体（リハ医学会、義肢装具学会）と連携協議をするための準備資料を作成する。

2. 義肢装具士業務及び関連制度

1) 倫理委員会 坂井一浩、中村喜彦

活動実績は特になし。

＜具体目標に対する達成度＞

前体制からの引継ぎ及び新委員の選抜・委嘱を前提に、以下二項目を委員会の具体目標とした。

「倫理綱領改定」、「義肢装具士倫理ガイドライン(仮称)」作成

令和元年度においてはいずれの項目も進捗はなく、任期2年目の間に具体的な検討を進める。

2) 義肢装具士業務指針検討 WG 野坂利也

本会の改訂案を下記の団体に示すと同時に各団体から委員を派遣してもらい、意見交換（2019年11月）を行った。その後、各団体にて審議結果を提出してもらった。その結果、PT協会とOT協会以外からは、本会案への同意が得られた。PT協会からは分科会である「日本支援工学理学療法学会」が担当部署なので本部では審議はしないと連絡があり、現在、分科会名での審議結果提出を依頼中である。OT協会からは修正案が示され、現在、OT協会への回答書と再修正案を作成中である。

日本義肢協会：時吉 重雄

日本義肢装具学会：菊地 尚久

日本作業療法士協会：大庭 潤平

日本整形外科学会：緒方 直史

日本理学療法士協会：長倉 裕二

日本リハビリテーション医学会：芳賀 信彦

（50音順、敬称略）

＜具体目標に対する達成度＞

年度内の完成を目指していたので、遅延が生じている。

3) 義肢装具士業務の対価化検討 WG 石原栄治

現在の補装具価格体系の中で、義肢装具士の職務に対する対価が、必ずしも明確でないことから、補装具価格体系中で義肢装具士の職務に対する対価化を実現するために立ち上げられたWGですが、業界を取り巻く状況の変化に伴い、補装具価格においてはIT化の影響を受け補装具費支給基準告示改定に向けた提案が厚労省から求められており、また、治療用装具価格においては既製品問題をきっかけにして、新たな価格体系の枠組みが治療用装具療養費検討専門委員会の下部組織であるリスト収載WGで検討されています。これらの動きを受け、当WGでは、根拠に基づく資料作成を進めるとともに、可能であれば、対価化の根拠となる義肢装具士の実態調査を実現したいと考えております。

＜これまでの主な活動と成果＞

5/31 第1回PO業務対価化検討WG会議を行った。

6/22 第3回既製品リスト収載検討WG(3/10)の要請を受け、既製品装具の価格設定案を作成し、JAPO理事会(web会議)に提出の後、第4回既製品リスト収載検討WG(8/16)の資料として提出した。

9/22 厚労省障害保健福祉部自立支援振興室の秋山専門官から「補装具支給基準告示改定に向けた提案」依頼(8/1)のうち、当WGでは質問4)のその他(補装具支給制度の運用全般に関する意見募集)に対して、PO業務対価化の意見ならびに関連資料を作成し、提出した。

1/22 三谷専門官より「既製品装具の価格設定(案)」が示され(1/14)、この案に対する意見が求められたため、検討を行った後、回答案を作成し提出した。

＜現在進行中の活動と今後の見通し＞

第5回既製品リスト収載検討WGが3月13日に、第5回社会保障審議会医療保険部会治療用装具療養費検討専門委員会が4月8日に開催予定となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、延期となっている。開催されれば、厚労省（三谷専門官）の「既製品装具の価格設定（案）」が審議される予定なので、これを受けて修正案等の要請に対応してゆきたい。

また、昨年、中央社会保険医療協議会総会が開催され（11/27）、「義肢装具の提供に係る医療機関と義肢装具事業者との連携について」の議題の中で、「採型」についての問題が取り上げられた。これは、第4回社会保障審議会医療保険部会治療用装具療養費検討専門委員会の中で、レセプトにおける採寸・採型料と装具価格の明細に含まれる基本価格の採寸・採型の重複請求に関する算定要件の明確化が問われた審議を受けての動きと推察される。実際には、ギプス料が重複していることが問題であり、少額（3列170円、2列250円）であるが、これに関する資料はPO協会より提出しており、推移を注視したい。実態調査については、現在、未定である。

4) 義肢装具士白書編集委員会 出井裕司、石原栄治

◆委員会内原稿執筆

令和元年4月：医療・福祉・労災領域の統計調査に関する原稿執筆（各委員）
：各領域の原稿執筆済み。アイペックで編集作業中（R2,4月現在）

◆原稿執筆依頼

令和元年10月：各支部（6支部）、各委員会（12委員会）、各WG（9WG）への原稿執筆依頼
：全ての原稿提出済み。アイペックで編集作業中（R2,4月現在）

◆義肢装具士実態調査の準備及び実施

令和元年11月：外部委託業者の選定及び決定（うるるBP0）
令和元年12月～：上記業者と打合せ、調整
令和2年4月：実態調査アンケート実施

<現在進行中の活動と今後の見通し>

白書作成に関して大幅な遅延（3～4ヶ月）があるが、発刊に向けて準備は進んでいる。

外部委託業者（うるるBP0及びアイペック）に新型コロナウイルスの影響が多少あるかと思われるが、年内に発刊できるよう引き続き準備する。

3. 社会的な活動

1) 地域包括ケアシステム検討WG

① 本部 野坂利也

以前理事会においては「モデル地域」の設置について提案があり、北海道北見市で行われている、市町村との連携と昭和伊南総合病院の大西氏の成功事例を全国展開する提案も検討されたが、成功事例を全国展開するには、市町村レベルでの温度差がある実情を鑑み、成功事例の調査、市町村からの要請に対する支援を行うこととし、WGの活動は当面静観することとなった。

<具体目標に対する達成度>

進捗については支部レベルでの情報収集レベルに留まっている。可能な範囲で支部長には市町村レベルでのキーパーソンを探してもらい、市町村の要請に対応できる人材を確保することに留まっている。

③ 北海道支部 小嶋 聡

令和元年 7 月 17 日（水）

北見市・北部包括支援センターとの連携で佐藤研修副委員長による講演

テーマ「義肢装具士と装具の理解」

<具体目標に対する達成度>

北海道支部での活動の方向性の検討及び委員の募集を行う予定であったが、支部の活動として積極的に動かなかったことが原因で、北見市との関わりに関する検討もしていなかった。

② 東北支部 関川伸哉

青森：2019.12 青森理学療法士協会青森支部：事例症例検討会参加

山形：2019.10 つるおか地域包括ケア研究会参加

2019.11 つるおか地域包括ケア研究会参加・東北7県医療連携実務者協議会参加

2020.1 やまがた冬のFUNまつり参加予定（幅広い職種や活動を行っている方々と健康・）

福島：2019.5 平成31年度：福島市医療と介護のネットワーク定例会参加

2019.9 平成31年度：福島市医療と介護のネットワーク定例会参加

2019.10 多職種連携合同研修会（福島市医療と介護のネットワーク主催）参加

宮城：2019.11 丸森災害ボランティア参加

2019.12 ひっば災害復旧大作戦参加

新型コロナウイルスの影響で当面の参加行事が中止または延期となっている。

仙台市健康増進センター、障害者総合支援センターからの要請を受け東北支部としてイベントに参加予定。

2) パラスポーツ支援ありかた検討 WG 坂井一浩、楡木祥子

・スポーツ庁委託の「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ用具活用促進事業）」を実施した。全国6会場にて、12月ー2月の間でスポーツ義足フォーラムを行い、合計参加者数は、86名であった。

・トーゴ人下肢切断者の2020東京パラリンピック出場を支援する活動を行った。12月に東京へ招致し、スポーツ義足の調整、トレーニング、メディア対応などを行った。

<具体目標に対する達成度>

上記二項目について目標を達成した。

但し、トーゴについてはコロナ感染拡大の影響により東京オリンピック、パラリンピックが延期となったため最終目標は実現していない。

3) 障がい者、パラアスリート、義肢装具士の啓もう WG 保谷純一

<企業内研修>

日程：2019年5月17日（金）

場所：株式会社 テルモ

(東京オペラシティ 49 階)

時間：15 時～16 時 30 分 ※JAP0 担当は 45 分間

対象：テルモ社員 30 名～40 名

内容：① 立位テニス選手の講演 (テルモ社員)

② JAP0 「障がいのある方々と、義肢装具士の関わり」講演

③ 義肢装具展示と質疑応答

スタッフ：4 名 (WG 委員 2 名・外部協力 2 名)

決算：104,901 円 (企業助成金 104,901 円、支部事業費 0 円)

<第 5 回 義肢装具体験イベント>

日程：2019 年 6 月 15 日 (土)

場所：西東京市立 保谷中学校

時間：1 時間目～3 時間目 (1 コマ：50 分)

対象：1 年生・のびる組 (158 名+20 名：178 名)・保護者・教職員

内容：① 講義「障がいのある方々と、義肢装具士の関わり」

採型デモ体験：下肢採型・体幹採型・足底採型

② 義足ユーザー交流 (大腿義足ユーザー・下腿義足ユーザー)

③ 装着体験：筋電義手体験・装具装着体験・高齢者疑似体験・骨格義足組立体験

スタッフ：24 名 (WG 委員 4 名・支部会 5 名・外部協力 PO 15 名)

決算：142,012 円 (中学校助成金 60,000 円、支部事業費 82,012 円)

<第 4 回 オリ・パラ教育推進支援プログラム>

日程：2019 年 10 月 3 日 (木)

場所：八王子市立 第五中学校

時間：13 時 00 分～14 時 10 分

対象：1 年生～3 年生 (475 名)・教職員

内容：① 講義：沖野氏

② 義足ユーザー交流 (下腿義足：パラリンピック陸上競技者/走幅跳日本記録保持者)

スタッフ：2 名 (WG 委員)

決算：99,700 円 (中学校助成金 99,700 円、支部事業費 0 円)

<第 5 回 オリ・パラ教育推進支援プログラム>

日程：2019 年 12 月 12 日 (木)

場所：品川区立 豊葉の杜学園

時間：10 時 50 分～12 時 40 分 (1 コマ 50 分で、同内容を 2 コマ)

対象：中学校 1 年生 (125 名)・教職員

内容：① 講義「障害を抱えた人々を支える義肢装具 パラリンピックと義肢装具士」

② 義足ユーザー交流

スタッフ：2 名 (WG 委員)

決算：70,030 円 (中学校助成金 50,000 円、支部事業費 20,030 円)

<第6回 オリ・パラ教育推進支援プログラム> ⇒ 中止

日程：2020年3月18日（水）

場所：東京都立 杉並工業高校

時間：9時00分～12時30分（1～4時間目）

対象：高校2年生（140名）・教職員

内容：① 講義「障害を抱えた人々を支える義肢装具 パラリンピックと義肢装具士」

② 講義：義足ユーザー（日本障がい者立位テニス選手）

③ 義足ユーザーによる日常動作・立位テニス パフォーマンス

④ 代表生徒による模擬義足体験

スタッフ：3名（WG委員）

<中野オリンピック パラリンピック フェスタ> ⇒ 中止

趣旨：中野区が2020オリンピックパラリンピック卓球競技の公式練習場になった記念

主催：中野区

運営：株式会社スマド

（東京都港区赤坂5-4-15 ARA赤坂ビル6階）

日程：2020年3月21日（土）

場所：中野体育館

※JAP0 含め7ブース展開予定

時間：13時00分～17時00分

対象：中野区民

内容：① スポーツ義足などの展示

② 模擬義足体験

スタッフ：6名（WG委員）

<具体目標に対する達成度>

今年度は中学校3校において、「義肢装具体験イベント」・「オリ・パラ教育推進支援プログラム」を実施した。プログラムの体験や義肢ユーザーとの交流を通じて、延べ700名の児童・生徒に「障がい」・「障がいのある方」への理解を深めてもらい、その方々を支援する義肢装具士についての認識と、ボランティアマインドの育成をはかった。

また、テルモ(株)において「義肢装具・義肢装具士・義肢装具利用者」について、職員に対する企業内研修を実施した。

実施後のアンケートからも、「障がいと支援」について理解を深めてもらえた結果がうかがえることから、目標が達成出来たと考える。

一方で新型コロナウイルスの影響から、初となる高等学校での「オリ・パラ教育推進支援プログラム」と、自治体から要請であった「中野区フェスタ」の実施が中止となった事は非常に残念な想いである。令和2年度もWG活動に影響が出ているが、状況が落ち着いたならば鋭意活動に取り組む考えである。

4) 大規模災害被災者支援 WG

① 本部 根岸和諭

- ・2019年11月14日に令和元年度第1回 JRAT 戦略会議出席。
令和元年10月の台風19号発生に伴う豪雨災害についての情報共有を行った。
- ・2020年3月27日に令和元年度第2回 JRAT 戦略会議（web会議）出席。
法人化設立について、加入意思確認、定款、登記事項の確認、法人化タイムスケジュール 等
について検討を行った。

<具体目標に対する達成度>

引き続き JRAT の傘下において、大規模災害に対する平時の準備及び災害発生時の被災者支援及び JASPA との共同のもと福祉用具の支給についてスキームを構築する。

また日本義肢装具士協会内においては、各支部との連絡関係を構築し情報共有に努め、また必要があれば都道府県単位での活動拠点設置を念頭に入れて活動を継続していく。

② 北海道支部 小嶋 聡

- ・北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）においての活動を行った。
- ・2か月ごとに開催される会議への参加
- ・1/25（土）～26（日）災害リハコーディネーター研修会の企画・運営
- ・平成30年北海道胆振東部地震の活動報告書の編集作業

<具体目標に対する達成度>

DoRAT への積極的な参加において役割を十分に担っている。

福祉用具の手配ルートの構築や日本義肢協会北海道支部との協力体制に関しては進展していないので義肢協会北海道支部支部長と話し合いを行う。

③ 南日本支部 本田智裕

コロナウイルス感染症により活動を自粛したため、目標達成に至っていない。

5) 国際委員会 楡木祥子

- ・平成30年度 国際支援活動助成事業 モンゴルへの支援の報告書が、P0 アカデミージャーナル Vol. 27, No. 2, 2019（9月発行）に掲載された。
- ・令和元年度 国際支援活動助成事業 TOGO スポーツ義足支援では、10月の申請から見直しをし、最終651,271円のスポーツ義足の足部・ライナーの交換とソケット調整費となった。パラリンピックを目指していたので、理事会の承認を受け、申請（10月）と支払い（4月）を同年度に行った。
- ・ISPO 神戸大会（10月）にて、香港の関係者と、JAPOの新会長をはじめとした常任理事の顔合わせを行った。

<具体目標に対する達成度>

- ・国際支援活動助成事業 平成30年度活動 報告は、ジャーナルへの掲載にて完了
- ・国際支援活動助成事業 令和元年度申請 支払い・活動は、繰り上げが認められ、完了
- ・香港義肢矯形師協会との交流発展は、ISPO 神戸大会にて顔合わせができた

4. 学術大会顧問会議 大塚 博、中村喜彦、楡木祥子

- ・第26回岡山大会（2020年開催）のサポート
特にコロナ禍の状況を踏まえ、延期・中止の判断を各方面と調整して決定した。

- ・ 第 27 回名古屋大会(2021 年開催)のサポート
- ・ 第 28 回大会 (東北支部) (2022 年開催)のサポート
- ・ 学術大会取り決め事項のアップデート

<具体目標に対する達成度>

- ・ おおむね問題ない

5. 広報委員会 大塚 博、楡木祥子

- ・ 会報誌の発刊 => 実績なし
- ・ WEB サイトの改修 => 実績なし
- ・ 協会リーフレットの制作 => リーフレット内のイラスト委託

<具体目標に対する達成度>

会報発刊を優先的に実施する必要がある。人的配置の再検討が必要。

6. 総務委員会 中村喜彦、根岸和諭

公益法人として初めて1年間を通して予算を執行し、2018 年決算において財務三基準を順守した。11 月末および1 月末での予算執行状況をモニタリングし、問題なく予算執行していることを確認した。令和 2 年度の予算案を理事会に提出した。2019 年度特定費用準備資金を新規に 3 件設置した。

<具体目標に対する達成度>

財務関係は大きな問題もなく遂行できた。一方、事務局業務の効率化については具体的な活動に至らなかったため、次年度は第一段階として業務内容・担当者の調査を行う。

7. 定款・会則委員会 大塚博

下記規程を制定した。

- ・ 社員総会運営規程
- ・ 委員会運営規程
- ・ 理事の職務権限規程
- ・ コンプライアンス規程
- ・ 個人情報管理規程
- ・ 入会及び退会に関する規程
- ・ 文書管理規程
- ・ 職員旅費規程
- ・ パート職員給与規程
- ・ 謝金規程
- ・ 弔慰規程 (改定)
- ・ 名誉会員規程 (改定)

<具体目標に対する達成度>

公益法人として備えるべきすべての規程を施行できた。各委員会の規程については次年度取り組む。

8. 組織率向上委員会 大塚博

- ・ 養成校最終学年に対する説明会の実施

12/16 西武学園医学技術専門学校 東京新宿校（大塚）

12/23 人間総合科学大学（根岸）

1/10 新潟医療福祉大学（大塚）

1/10 広島国際大学（石原）

1/20 神戸医療福祉専門学校三田校（石原）

1/31 日本聴能言語福祉学院（根岸）

2/7 北海道ハイテクノロジー専門学校（野坂）

2/22 北海道科学大学（野坂）

2/25 国立障害者リハビリテーションセンター学院（大塚）

※ 熊本総合医療リハビリテーション学院は、コロナ禍のため中止

- ・会員であることの価値を高める事業の推進
=>実績なし。賠償責任保険導入の推進
- ・入会退会のデータ分析=>実績なし

9.支部活動

①北海道支部

- ・DoRAT での活動（DoRAT 会議）

6/4（火）、8/6（火）、10/1（火）、12/3（火）、2/4（火）、4/7（火）、5/12（火）

2020年災害リハコーディネーター研修会 1/25（土）2名, 1/26（日）早川氏

- ・令和元年12月15日（日）スポーツ義足フォーラム：札幌駅前ビジネススペース
- ・支部だよりの内容検討

<具体目標に対する達成度>

委員の選定が滞っているので委員会の実施が出来ていない。また、支部だよりの内容検討中で当初予定の4月発行までに至っていない。

②東北支部

2020.2.15 スポーツ義足フォーラム ～製作技術イントロ編～（参加者：23名）

2020.2.22 東北6県会議（支部会・研修編集委員会含む）

2020.4.12 生涯学習委員から新人研修セミナー中止の報告

2020.4.13 副研修委員長から2020年度の支部セミナー延期の報告

- ・各県での活動では地域差が生じてはいるが東北6県会議（研修・編集含む）での情報共有は密に行い東北支部内での勉強会も企画中。
- ・2022年の第28回日本義肢装具士協会学術大会に向けての組織作りが急務であるとする。
- ・副研修委員長が今期で離職となるので新たな副研修委員長を支部で支えていかななくてはならない。
- ・次年度、東北での学卒生が4名とかなり少ないので支部として何が出来、盛り上げていけるかもこれからは考えていかなければならない。
- ・2020年度の支部セミナーは新型コロナウイルスの全国的な蔓延により講師陣から年内の県外出張が自粛となる旨、および会場となる学校からも他県からの参加者を校内にいれてのセミナーに難色を示していた事、新型コロナウイルスの収束時期の予測が出来ない事、そして集客面を鑑みて2021.9に延期を決定。2021年度に開催予定であったセミナー講師陣にも連絡を取り了承してもらった。

③東日本支部

<新潟福祉機器展 JAPO ブース出展>

日程：2019年5月10日（金）・11日（土）・12日（日）

場所：新潟市産業振興センター

時間：13：00～16：30(5/10)・10：00～16：30(5/11)・9：30～15：30(5/12)

内容：筋電義手体験・義肢装具展示・義肢装具士紹介・義肢装具に関する相談

スタッフ：各日4名（PO1名・学生3名）

決算：52,972円（支部事業費）

<日本義肢協会（関東・東京支部）との合同会議>

日程：2019年10月19日（土）

場所：東京義肢協同組合事務所

時間：15：00～16：20

内容：合同セミナーに関する協議

<義肢協会（関東・東京支部）・JAPO（東日本）合同セミナー>

テーマ：「足底装具とバイオメカニクス ～エビデンスに基づいた足底装具を製作するために～」

講師：大西 忠輔先生（昭和伊南総合病院 義肢装具士／理学療法士）

日程：2019年11月9日（土）

場所：ハロー貸会議室 秋葉原駅前（Room B+C 連結）

時間：12：00～17：00

参加：91名

決算：343,090円（収支差額：+40,910円）

<支部会>

日程：2019年11月4日（月：祝）

場所：新川区民館

時間：10：00～16：00

内容：支部活動・PO 啓もう WG 活動に関する協議

<支部活動会議> ⇒ 延期

日程：2020年4月19日（日）

場所：義肢会館

時間：10：00～16：00

内容：支部活動・PO 啓もう WG・地域包括ケアシステム検討 GW の活動に関する協議

<具体目標に対する達成度>

- I. 「日本義肢協会（関東・東京支部）」との協同体制については、より強固なものとする為に連携に取り組み、今年度実施した合同セミナーは定員を超える参加者を迎え成功させることが出来た。

II. 新潟県内の関連職種やユーザーへの情報発信の場となっている、新潟福祉機器展へブースの出展をおこない、筋電義手の体験や義肢装具展示、義足歩行や調整方法のビデオ上映や来場者への各種相談を通して、義肢装具の最新技術や義肢装具士の仕事理解および義肢装具士という医療職としての名称と認知度アップに繋がる広報活動に取り組むことが出来た。

④中部日本支部

- ・2019年度スポーツ庁障害者スポーツ推進プロジェクト（スポーツ義足フォーラム）
2020.2.8 参加者 12名 日本聴能言語福祉学院 5階講堂
- ・2019年度一般社団法人ハビリスジャパン「思いつき走り！in福井」
2019.11.24 参加者 14名 福井県営陸上競技場 9.98 スタジアム

<具体目標に対する達成度>

目標を達成することができた。

⑤西日本支部

- ・学術大会開催→中止。2年後に開催予定
- ・研修委員会西日本支部の研修セミナーの協力。→中止。1年後に開催予定。
- ・リハ医学会近畿地方会への共催→昨年度中止となり本年度開催予定ではあるが、現状としては未定。
- ・三田校OB会セミナーへの協力→中止。

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を自粛したため目標達成に至っていない。

⑥南日本支部

新型コロナウイルス感染症により活動を自粛したため、目標達成に至っていない。

以上